



平成25年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月14日

上場取引所 大

上場会社名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

コード番号 7707 URL <http://www.pss.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田島 秀二

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営統括本部長 (氏名) 秋本 淳

TEL 047-303-4800

四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年6月期第1四半期の連結業績(平成24年7月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|-----|-------|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 25年6月期第1四半期 | 839 | 2.1 | △198 | — | △203 | — | △193 | — |
| 24年6月期第1四半期 | 822 | △10.7 | △20 | — | △48 | — | △58 | — |

(注) 包括利益 25年6月期第1四半期 △191百万円 (—%) 24年6月期第1四半期 △96百万円 (—%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 25年6月期第1四半期 | △2,117.48 | — |
| 24年6月期第1四半期 | △642.88 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 25年6月期第1四半期 | 5,185 | 2,638 | 43.8 |
| 24年6月期 | 4,584 | 2,613 | 53.6 |

(参考) 自己資本 25年6月期第1四半期 2,270百万円 24年6月期 2,459百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 24年6月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 25年6月期 | — | — | — | — | — |
| 25年6月期(予想) | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年6月期の連結業績予想(平成24年7月1日～平成25年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|-----------|-------|------|------|---|------|---|-------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 1,950 | 13.2 | 25 | — | 15 | — | 7 | — | 76.70 |
| 通期 | 4,100 | 16.5 | 50 | — | 30 | — | 15 | — | 164.37 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) エヌピーエス株式会社、除外 1社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期連結会計期間より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、四半期決算短信(添付資料)5ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 25年6月期1Q | 91,260 株 | 24年6月期 | 91,260 株 |
| 25年6月期1Q | — 株 | 24年6月期 | — 株 |
| 25年6月期1Q | 91,260 株 | 24年6月期1Q | 91,260 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・個人投資家向け説明会を12月1日(土)に予定しております。詳しくは弊社ウェブサイト(<http://www.pss.co.jp/>)をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 4 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 4 |
| 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 | 5 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 5 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 5 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 8 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 9 |
| (3) 継続企業の前提に関する注記 | 10 |
| (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 10 |
| (5) セグメント情報等 | 10 |
| (6) 企業結合等関係 | 11 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、長期化している円高の影響から輸出産業において停滞感はあるものの、震災の復興需要などの要因もあり比較的堅調に推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、バイオ関連業界において、遺伝子やタンパク質の解析や診断に利用される自動化装置の製造販売、それら装置に使用される試薬や反応容器などの消耗品類の製造販売に注力してまいりました。

当社グループの主力製品は、血液や組織細胞から遺伝子やタンパク質を抽出・精製するための自動化装置（DNA自動抽出装置）であり、当社の特許技術を利用したオリジナル製品群であります。これら製品は、大手企業へのOEM販売（相手先ブランドによる販売）を中心にワールドワイドに展開しております。主要なOEM先は、ロシユグループ、キアゲングループ、三菱化学メディエンス(株)、ライフテクノロジーズ社、ベックマン・コールター社、ナノストリング社などとなっております。

また、近年はOEMばかりではなく、自社ブランドによる販売展開にも注力しております。

当第1四半期連結累計期間は、ロシユグループとの取引において、約2年にわたり調整してきたOEM先での過剰在庫問題がようやく解消し、装置・消耗品ともに順調な販売となりましたが、一方で、キアゲングループや三菱化学メディエンス(株)向け販売は低調に推移いたしました。また、新規OEM先からの受託開発案件では、当社としては経験の少ない分野での開発要素を多く含んでいたことが影響し、予想を上回るコスト計上を余儀なくされたことや、当連結会計年度から子会社となったエヌピーエス(株)（秋田県に所在する装置・消耗品の製造工場）の影響などから、売上総利益率の低下を招きました。

その結果、売上高839百万円（前年同期比2.1%増）とわずかながら増収を確保したものの、売上総利益162百万円（前年同期比49.1%減）と大幅な減益となりました。問題となった受託開発案件に関しては、当第1四半期連結累計期間における個別の問題であり、全体的には、第2四半期以降での利益率の回復は期待できるものと考えております。

また、当連結会計年度からエヌピーエス(株)の費用が加わったことなどから、販売費及び一般管理費は360百万円（前年同期比6.2%増）となりました。その結果、営業損失198百万円（前年同期は営業損失20百万円）、経常損失203百万円（前年同期は経常損失48百万円）、四半期純損失193百万円（前年同期は四半期純損失58百万円）となりました。

取引先別の販売状況は、下表のとおりであります。

| | 前第1四半期 連結累計期間 | | 当第1四半期 連結累計期間 | | 対前年同期 増減率 | (参考) 前連結会計年度 | |
|----------|------------------|-------|------------------|-------|--------------|-----------------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | | 金額 | 構成比 |
| | 百万円 | % | 百万円 | % | % | 百万円 | % |
| ロシユグループ | 177 | 21.6 | 292 | 34.8 | 64.5 | 806 | 22.9 |
| キアゲングループ | 247 | 30.1 | 125 | 14.9 | △49.2 | 969 | 27.6 |
| その他 | 397 | 48.3 | 422 | 50.3 | 6.2 | 1,743 | 49.5 |
| 合計 | 822 | 100.0 | 839 | 100.0 | 2.1 | 3,520 | 100.0 |

ロシユグループ向け販売は、約2年にわたり調整してきたOEM先での過剰在庫の問題がようやく解消し、装置・消耗品ともに順調な販売となり、売上高292百万円（前年同期比64.5%増）を確保いたしました。

キアゲングループ向け販売は、売上高125百万円（前年同期比49.2%減）と低調な推移となりましたが、受注状況はまずまずであり、第2四半期以降での回復に期待したいと考えております。

その他に関しましては、三菱化学メディエンス(株)向けのOEM機器に関し、バージョンアップの実施に伴う新機種への移行に手間取った関係から、前年同期比で大きく売上を落としましたが、当連結会計年度より子会社となったエヌピーエス(株)の売上高172百万円（当社グループ以外の外部顧客に対する売上高）が加わったことから、売上高422百万円（前年同期比6.2%増）となりました。三菱化学メディエンス(株)に関しましては、第2四半期以降での回復に期待したいと考えております。

製品区分別の売上高は、下表のとおりであります。

| | 前第1四半期 連結累計期間 | | 当第1四半期 連結累計期間 | | 対前年同期 増減率 | (参考) 前連結会計年度 | |
|------------|------------------|-------|------------------|-------|--------------|-----------------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | | 金額 | 構成比 |
| | 百万円 | % | 百万円 | % | % | 百万円 | % |
| DNA自動抽出装置等 | 456 | 55.6 | 322 | 38.4 | △29.5 | 2,051 | 58.3 |
| 試薬・消耗品類 | 220 | 26.8 | 227 | 27.1 | 3.3 | 898 | 25.5 |
| メンテナンス関連 | 57 | 7.0 | 78 | 9.3 | 34.9 | 320 | 9.1 |
| その他 | 87 | 10.6 | 212 | 25.2 | 143.1 | 249 | 7.1 |
| 合計 | 822 | 100.0 | 839 | 100.0 | 2.1 | 3,520 | 100.0 |

① DNA自動抽出装置等

当区分は、当社の特許技術を利用した自動化装置の区分であり、ロシュグループやキアゲングループ等に供給しているDNA自動抽出装置の他、三菱化学メディエンス(株)に供給している免疫化学発光測定装置や自社ブランド展開しているタンパク質自動精製装置などがあります。

当第1四半期連結累計期間は、ロシュグループとの取引が回復した一方で、キアゲングループや三菱化学メディエンス(株)向け販売が低調に推移したことなどから、売上高322百万円（前年同期比29.5%減）となりました。

四半期毎の販売推移は、下表のとおりであります。販売単価は、為替の影響や機種により価格帯が異なることなどから、変動しているものであります。

| | 前連結会計年度 | | | | 当連結会計年度 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 第1四半期 |
| 販売台数（台） | 243 | 331 | 207 | 405 | 167 |
| 販売金額（千円） | 456,905 | 544,719 | 375,598 | 674,114 | 322,052 |
| 販売単価（千円） | 1,880 | 1,645 | 1,814 | 1,664 | 1,928 |

② 試薬・消耗品類

当区分は、DNA抽出やタンパク精製などに利用される各種の試薬及び当社装置の使用に伴い消費される反応容器などの専用プラスチック消耗品の区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社で試薬を製造販売しておりますが、プラスチック消耗品類は当社から購入する契約となっております。

当第1四半期連結累計期間は、売上高227百万円（前年同期比3.3%増）となりました。当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

③ メンテナンス関連

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ（交換部品）販売などの区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社でメンテナンス対応しておりますが、スペアパーツは当社から購入する契約となっております。

当第1四半期連結累計期間は、売上高78百万円（前年同期比34.9%増）となりました。当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

④ その他

当区分は、上記①②③のいずれにも該当しない売上を区分しています。主には、研究施設などで利用される特注自動化機器や顧客要求に基づく新規の製品開発、他社製品の販売代理活動などの売上高に加え、当連結会計年度より、秋田県に所在する装置・消耗品の製造工場であるエヌピーエス(株)の売上高（当社グループ以外の外部顧客に対する売上高）が計上されています。エヌピーエス(株)は、当社と日本パルスモーター(株)が共同運営している工場であります。

当第1四半期連結累計期間は、売上高212百万円（前年同期比143.1%増）となりました。エヌピーエス(株)の売上高172百万円の他、新規OEM先との受託開発契約に基づく売上などが計上されています。当区分の売上高は、開発案件の受注状況などにより大きく変動いたします。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 日本

当第1四半期連結累計期間の日本の売上高は690百万円（前年同期比0.6%減）となり、その内、外部顧客への売上高は249百万円（前年同期比0.2%減）となりました。三菱化学メディエンス㈱向け販売などは低調でしたが、エヌピーエス㈱の売上が加わったことから、ほぼ前年同期並みの売上高となりました。一方、前述の受託開発案件や自社開発の推進により、営業費用は859百万円（前年同期比27.6%増）と大幅に増加する結果となり、営業損失169百万円（前年同期は営業利益20百万円）となりました。

② 米国

当第1四半期連結累計期間の米国の売上高は129百万円（前年同期比6.9%増）となりました。ライフテクノロジー社やナノストリング社が前年同四半期を上回る実績となったことから増収を確保いたしました。一方で近時の円高の影響から利益率の低下もあり、営業費用は136百万円（前年同期比9.7%増）となり、営業損失6百万円（前年同期は営業損失3百万円）となりました。

③ ドイツ

当第1四半期連結累計期間のドイツの売上高は463百万円（前年同期比2.5%増）となりました。キアゲングループは低調だったものの、ロシユグループとの取引が回復してきたことが大きく影響いたしました。一方、営業費用は449百万円（前年同期比2.1%増）となり、営業利益13百万円（前年同期比16.6%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は5,185百万円となり、前連結会計年度末に比べて601百万円の増加となりました。現金及び預金が248百万円増加、たな卸資産が288百万円増加、有形固定資産が316百万円増加した一方、受取手形及び売掛金が247百万円減少、投資有価証券の減少等によって投資その他の資産が87百万円減少いたしました。資産増加の主な要因は、当連結会計年度から子会社となったエヌピーエス㈱による影響であります。受取手形及び売掛金の減少に関しては、前連結会計年度末が大きく膨らんでいたことが要因であり、投資その他の資産の減少は、主にエヌピーエス㈱が持分法適用関連会社から連結子会社になったことによる影響であります。

負債合計は2,546百万円となり、前連結会計年度末に比べて576百万円の増加となりました。流動負債において、支払手形及び買掛金が320百万円増加、短期借入金が300百万円増加した一方、固定負債において長期借入金が137百万円減少いたしました。支払手形及び買掛金の増加に関しては、主にエヌピーエス㈱の子会社化による影響であります。

純資産合計は2,638百万円となり、前連結会計年度末に比べて25百万円の増加となりました。四半期純損失の発生により利益剰余金が193百万円減少した他、為替換算調整勘定が4百万円の増加、主にエヌピーエス㈱の子会社化に伴い少数株主持分が213百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間は、売上高839百万円、四半期純損失193百万円という厳しい結果となりました。ロシユグループ向け販売に関しましては、当初予想どおり回復いたしました。しかし、キアゲングループや三菱化学メディエンス㈱向け販売が低調でありました。しかし、第2四半期以降の回復は十分に期待できるものと考えております。

また、新規OEM先からの受託開発案件では、予想を上回るコスト計上となりましたが、今後の量産機の出荷には期待できるものと考えております。更に、当連結会計年度からスタートした新しい組織体制の下、新規案件の獲得に向けて様々な活動が展開されておりますので、第2四半期以降、こういった活動が実を結ぶことも期待しております。

経費面では、当第1四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は360百万円となり、若干の予算オーバーとなりましたが、第2四半期以降で、十分に挽回可能な範囲と考えております。

こういった状況から判断し、現時点においては、期初の業績予想につき変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成24年7月31日付で当社の持分法適用関連会社であったエヌピーエス(株)の株式を追加取得し、当第1四半期連結累計期間より連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更
(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年7月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成24年6月30日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,762,392 | 2,010,775 |
| 受取手形及び売掛金 | 864,083 | 616,739 |
| 商品及び製品 | 658,077 | 842,833 |
| 仕掛品 | 94,887 | 89,806 |
| 原材料及び貯蔵品 | 33,257 | 142,328 |
| 繰延税金資産 | 38,480 | 44,194 |
| その他 | 121,795 | 175,929 |
| 貸倒引当金 | △2,588 | △2,835 |
| 流動資産合計 | 3,570,387 | 3,919,770 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 736,585 | 1,053,309 |
| 無形固定資産 | 20,650 | 42,995 |
| 投資その他の資産 | 256,516 | 169,414 |
| 固定資産合計 | 1,013,752 | 1,265,720 |
| 資産合計 | 4,584,140 | 5,185,490 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 214,542 | 534,676 |
| 短期借入金 | — | 300,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 436,241 | 465,544 |
| リース債務 | 9,768 | 7,960 |
| 未払法人税等 | 11,626 | 4,481 |
| 賞与引当金 | 5,839 | 46,924 |
| その他 | 163,719 | 140,048 |
| 流動負債合計 | 841,737 | 1,499,634 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 1,089,344 | 952,252 |
| リース債務 | 3,832 | 4,047 |
| 繰延税金負債 | 35,250 | 37,540 |
| 退職給付引当金 | — | 52,964 |
| その他 | 196 | 136 |
| 固定負債合計 | 1,128,624 | 1,046,941 |
| 負債合計 | 1,970,361 | 2,546,575 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成24年6月30日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,217,194 | 2,217,194 |
| 資本剰余金 | 251,999 | 251,999 |
| 利益剰余金 | 151,241 | △41,999 |
| 株主資本合計 | 2,620,434 | 2,427,193 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | △161,170 | △156,710 |
| その他の包括利益累計額合計 | △161,170 | △156,710 |
| 少数株主持分 | 154,514 | 368,431 |
| 純資産合計 | 2,613,779 | 2,638,914 |
| 負債純資産合計 | 4,584,140 | 5,185,490 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日) |
|--------------------|---|---|
| 売上高 | 822,177 | 839,682 |
| 売上原価 | 503,245 | 677,345 |
| 売上総利益 | 318,931 | 162,337 |
| 販売費及び一般管理費 | 339,415 | 360,495 |
| 営業損失(△) | △20,483 | △198,158 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 143 | 101 |
| 助成金収入 | 649 | 893 |
| その他 | 422 | 571 |
| 営業外収益合計 | 1,215 | 1,566 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 3,846 | 4,139 |
| 為替差損 | 19,908 | 2,957 |
| その他 | 5,948 | 2 |
| 営業外費用合計 | 29,703 | 7,099 |
| 経常損失(△) | △48,972 | △203,690 |
| 特別利益 | | |
| 負ののれん発生益 | — | 13,449 |
| 特別利益合計 | — | 13,449 |
| 特別損失 | | |
| 投資有価証券評価損 | — | 3,645 |
| 段階取得に係る差損 | — | 9,141 |
| 特別損失合計 | — | 12,787 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △48,972 | △203,028 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 8,546 | 3,709 |
| 法人税等調整額 | △1,925 | △11,110 |
| 法人税等合計 | 6,621 | △7,401 |
| 少数株主損益調整前四半期純損失(△) | △55,593 | △195,627 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | 3,075 | △2,386 |
| 四半期純損失(△) | △58,668 | △193,241 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日) |
|--------------------|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純損失(△) | △55,593 | △195,627 |
| その他の包括利益 | | |
| 為替換算調整勘定 | △41,191 | 4,459 |
| その他の包括利益合計 | △41,191 | 4,459 |
| 四半期包括利益 | △96,785 | △191,167 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △99,860 | △188,781 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 3,075 | △2,386 |

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|---------|---------|---------|-----------|--------------|--------------------------------|
| | 日本 | 米国 | ドイツ | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| (1) 外部顧客への売上高 | 249,931 | 120,961 | 451,284 | 822,177 | — | 822,177 |
| (2) セグメント間の内部売上高又は振替高 | 444,547 | 546 | 845 | 445,938 | △445,938 | — |
| 計 | 694,478 | 121,507 | 452,129 | 1,268,115 | △445,938 | 822,177 |
| セグメント利益又はセグメント損失(△) | 20,569 | △3,020 | 11,776 | 29,326 | △49,809 | △20,483 |

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△49,809千円には、セグメント間取引消去△8,476千円及び配賦不能営業費用△41,333千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|----------|---------|---------|-----------|--------------|--------------------------------|
| | 日本 | 米国 | ドイツ | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| (1) 外部顧客への売上高 | 249,402 | 128,675 | 461,604 | 839,682 | — | 839,682 |
| (2) セグメント間の内部売上高又は振替高 | 440,878 | 1,209 | 1,618 | 443,706 | △443,706 | — |
| 計 | 690,280 | 129,885 | 463,223 | 1,283,389 | △443,706 | 839,682 |
| セグメント利益又はセグメント損失(△) | △169,461 | △6,723 | 13,728 | △162,456 | △35,701 | △198,158 |

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△35,701千円には、セグメント間取引消去1,830千円及び配賦不能営業費用△37,531千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、エヌピーエス(株)の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「日本」セグメントにおいて795,018千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれんの発生益)

当第1四半期連結累計期間より、持分法適用関連会社であるエヌピーエス(株)の発行済株式を追加取得し、連結子会社としております。これにより、「日本」セグメントにおいて13,449千円の負ののれん発生益を計上しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する情報

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年7月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

これによるセグメント損益への影響は軽微であります。

(6) 企業結合等関係

当第1四半期連結会計期間(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 エヌピーエス(株)

事業の内容 電子部品・電子機器、計測機器・試験機器、自動制御装置・工作機械、医療機器等の製造販売等

(2) 企業結合を行った主な理由

現在、当社グループの事業領域である遺伝子診断分野は、感染症やDNA鑑定等の臨床現場における利用の増加により、自動化装置の需要が世界的に広がっています。こうした事業環境を鑑みて、更なる生産管理体制の強化と製造コスト削減を実現することを目的としています。

(3) 企業結合日

平成24年7月31日

(4) 企業結合の法的形式

現金による株式の取得

(5) 結合後企業の名称

エヌピーエス(株)

(6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率 33.4%

企業結合日に追加取得した議決権比率 17.6%

取得後の議決権比率 51.0%

(7) 取得企業を決定するに至る主な根拠

当社が現金を対価として、株式を取得するためであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成24年5月1日から平成24年9月30日まで

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価

企業結合直前に保有していたエヌピーエス(株)株式の企業結合日における時価 139,264千円

企業結合日において取得したエヌピーエス(株)株式の時価 73,384

取得原価 212,649

4. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得による差損 9,141千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因

(1) 発生した負ののれん金額

13,449千円

(2) 発生原因

企業結合時の時価純資産が取得価額を上回ったためであります。

(3) 償却方法及び償却期間

一括償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

| | |
|------|----------------|
| 流動資産 | 322,538千円 |
| 固定資産 | <u>368,662</u> |
| 資産合計 | <u>691,201</u> |
| 流動負債 | 213,029 |
| 固定負債 | <u>33,840</u> |
| 負債合計 | <u>246,870</u> |

(注) 上記は、連結上、必要な調整を反映したものであります。